

# JDC 東京コングレス

## 2017 "Current Trend in Ballroom and Latin" ボールルームとラテンにおける今日のトレンド

毎年元世界チャンピオンやファイナリストなどの豪華講師陣を招いて行われる当講習会。

今年のテーマは「ボールルームとラテンにおける今日のトレンド」。6名の講師によるレクチャーをレポートする。

日時：平成29年2月27日（月）会場：東京都立産業貿易センター台東館7階 主催：JDC 公認：WDC 取材・文：神元誠・久子 写真：澤田博之



マーカス・ヒルトン MBE  
**Marcus Hilton**  
(MBE)

ボールルームは  
正しい道を歩んでいる

セルゲイ・リュビン  
**Sergey Ryupin**

特に新しいことを  
するわけではない

クリストファー・ホーキンス  
**Christopher Hawkins**

選択する中に  
エジュケーションが必要

ドニー・バーンズ MBE  
**Donnie Burns**  
(MBE)

ワルツで人気のあるオープン・  
ナチュラル・ターン（123）・  
シンコペーティード・ランニング・  
ファニッシュ（12&3&）を  
例に、こうした親しみあるフィ  
ギーをいかに質の高いものにす  
るか、その考え方として加速減  
速について話されました。

「ボールルーム・ダンスの流れは未来の美しいダンスに向かい、正しい道を歩んでいると思います。タンゴでは歩く、脚部でとるタイミング、ロー・テーションなどのベーシック・アクションなどが戻りうれしく思います。それこそが本来のタンゴです。私の好きななヵウントの取り方は（1&2&3）で、1はレッグのアクション、&はボディのアクションです。1ですぐにボディを乗せません。

10～15年ほど前から音楽性を重要視し、常に2小節、4小節、あるいは、8小節構成のフレーミングで踊るようになりましたが、その重要性がある一方、アクションやダンスの特性を忘れてしまいます。（その特性のひとつとして）ビルから"Monumental Stillness"（胸像のような静けさ）の表現を聞いたことがあります」。

● 外回りは加速気味で内回りは減速気味。  
● 外回りは加速気味で内回りは減速気味。

これら3つのテクニックを選択して自分を表現するのだが、選択するには理解が必要。選択の中にはエジュケーションがあります。自身を知り、自分のボディを知り、音楽を知り、パートナーを知り、与えることと引き出しことを知った上で、自分なりの方法でアップルーチしていくことが成功へ

持つこと。

「何がトレンドかよく分からいません。もしトレンドがあるとするとなるなら、それをすると、みんな同じ踊りになるじゃないですか。それは私がやることではありません。自分にとり、トレンドがあるとすると、それは日々行なっていること。トレンドがあるとすると、それは絶え間なく進歩し続けることです。ある日、カーラジオで聞いた牧師さんの話によると、人は1日平均、15,000語を自分の内で話し、その内、95～98%がネガティブなことらしい。しかしダンスに対してはポジティブであり続けることが重要です。自分の中にハーモニーを感じ、音楽とのハーモニーを感じ、パートナーとのハーモニーを感じ、その上で、いかに男として踊るか、いかに女として踊るかを考えましょう」。



1 マーカス・ヒルトン MBEとモデルのアンドレア・サラ 2 セル  
ゲイ・リュビン 3 クリストファー・ホークインズ 4 ドニー・バーンズ  
MBE 5 6 フェレンツ・ポーライとモデルのドーメン・ナターシャ  
7 8 エスピアン・サルバードとモデルのパウエル&オクサナ

Ferenc Polai

オーストリアン・ジャーマン  
リバイズド・テクニック

ボーライ氏は最近のヴィ

ニーズ・ワルツはフットワークも含め違うと思われています。その打開を図るべく、2007年にルディ・トゥラウツ氏と“*The Austrian-German revised Technique*”を発行しました(左写真。A5版11頁)。

目が（一 二 三・四 五 六）の1拍目となるよう、ナチュラルとリバース・ピボット（共に1小節使う2歩構成）が追加されています。他にも起源による違いがあるようです。

氏は最後に音楽に触れ、正しいフレーディング、すなわち、（一 二 三・四 五 6）のものを選びましょう。今日、（一 二 三・一 二 3）の演奏をよ聞きますが、これではありますと話されました。

Espen Salberg

エス・パン・サルバード

トレンドとは  
クリエートするもの

リエートするものと語るサルバード氏。

レクチャーでは、人気あるオクサナ・レビデューと新しいパートナー、パウエルに踊つてもらひながら、振り付けの中に見るスピード、ダイメンション、タイミング、リズム、ハーモニーなどの説明をしていきました。ラテンで求められる「強さ」の表現は危険を伴うと指摘。それは筋肉に頼る危険があるからと。例として、ルンバでのセトリングは力によるものではなく、ヒップやボディを重力に対して解放して行うとの、深い説明がありました。

今日における競技会の

今日における競技会のラテン・アメリカンは高次元になつたが、みんな同じ踊りをしている。20年くらい前の競技会では、みんな違う踊りをしていた。トレンドとは（真似するものではなく）ク

元世界チャンピオン、ファイナリストによる  
テクニック向上のためのレクチャー



講習の通訳を務めた神元誠さん・久子さん。(P50-53にて「サークルで上手くなっちゃって、ごめんなさい!」を連載中)